

九州地方整備局事業評価監視委員会
(平成30年度第3回)の議事概要について(速報)

■開催日時：平成30年12月4日(火) 14:00～16:00

■開催場所：第五博多偕成ビル 10階 第1・2会議室
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1丁目18番25号

■主な議題

○審議【再評価】

<河川事業>

- ・球磨川総合水系環境整備事業(熊本県)

<道路事業>

- ・九州横断自動車道 延岡線 嘉島JCT～矢部(熊本県)
- ・一般国道3号 鹿児島東西道路(鹿児島県)
- ・一般国道10号 都城道路(宮崎県)
- ・一般国道3号 芦北出水道路(熊本県・鹿児島県)
- ・一般国道208号 有明海沿岸道路(大牟田～大川)(福岡県・熊本県)

<港湾事業>

- ・八代港国際クルーズ拠点整備事業(熊本県)

<海岸事業>

- ・指宿港海岸直轄海岸保全施設整備事業(鹿児島県)

なお、議事概要についての詳細は、別紙のとおりになります。

<問い合わせ先>

国土交通省九州地方整備局 TEL 092-471-6331 (代表)

○事業評価全般 企画部 技術企画官 坂本 隆一 (内線 3126)
TEL 092-476-3542(直通)

○河川事業 河川部 河川環境課長 荒木 和幸 (内線 3651)
TEL 092-476-3525(直通)

○道路事業 道路部 道路計画第一課長 野村 文彦 (内線 4211)
TEL 092-476-3529(直通)

○港湾・海岸事業 港湾空港部 港湾計画課長 高田 正志 (内線 62320)
TEL 092-418-3358(直通)

**九州地方整備局事業評価監視委員会（平成30年度 第3回）
議事概要（速報）**

○日 時 平成30年12月4日(火) 14:00～16:00

○場 所 第五博多借成ビル 10階 第1・2会議室

○出席者

- ・ 委 員 浅野委員、柿本委員、園田委員、辰巳委員、戸田委員、平田委員、廣岡委員

- ・ 整備局 局長 伊勢田、副局長 稲田、副局長 川崎、企画部長 藤巻、建政部長 井浦、
河川部長 竹島、道路部長 前佛、港湾空港部長 中村、営繕部長 佐藤、
用地部長 坂本 他

○資 料

- ・ 議事次第、配席図、委員名簿
- ・ 資料－1 平成30年度第3回事業評価監視委員会対象事業一覧・位置図・各県からの
意見照会回答
- ・ 資料－2 平成30年度第3回事業評価監視委員会【再評価】
- ・ 資料－3 一括審議案件一覧

○議 事

1. 開会

2. 議題

1) 事務局からの説明

2) 対象事業の審議・報告

○審議【再評価】 河川1事業、道路5事業、港湾1事業、海岸1事業

○審議【再評価】

<河川事業>

- ・ 球磨川総合水系環境整備事業（熊本県）

<道路事業>

- ・ 九州横断自動車道 延岡線 嘉島JCT～矢部（熊本県）
- ・ 一般国道3号 鹿児島東西道路（鹿児島県）
- ・ 一般国道10号 都城道路（宮崎県）
- ・ 一般国道3号 芦北出水道路（熊本県・鹿児島県）
- ・ 一般国道208号 有明海沿岸道路（大牟田～大川）（福岡県・熊本県）

<港湾事業>

- ・ 八代港国際クルーズ拠点整備事業（熊本県）

<海岸事業>

- ・ 指宿港海岸直轄海岸保全施設整備事業（鹿児島県）

6. 閉会

○審議結果【再評価】

事務局より再評価の審議対象事業（河川1事業、道路5事業、港湾1事業、海岸1事業）について説明し、審議を行った。

（河川）

【球磨川総合水系環境整備事業】

- ・審議の結果、対応方針（原案）どおり、「事業継続」で了承された。

（道路）

【九州横断自動車道 延岡線 嘉島JCT～矢部】

- ・審議の結果、対応方針（原案）どおり、「事業継続」で了承された。

【一般国道3号 鹿児島東西道路】

- ・審議の結果、対応方針（原案）どおり、「事業継続」で了承された。

【一般国道10号 都城道路】

- ・審議の結果、対応方針（原案）どおり、「事業継続」で了承された。

【一般国道3号 芦北出水道路】

- ・審議の結果、対応方針（原案）どおり、「事業継続」で了承された。

【一般国道208号 有明海沿岸道路】

- ・審議の結果、対応方針（原案）どおり、「事業継続」で了承された。

（港湾事業）

【八代港国際クルーズ拠点整備事業】

- ・審議の結果、対応方針（原案）どおり、「事業継続」で了承された。

（海岸事業）

【指宿港海岸直轄海岸保全施設整備事業】

- ・審議の結果、対応方針（原案）どおり、「事業継続」で了承された。

平成30年度 九州地方整備局事業評価監視委員会
委員名簿

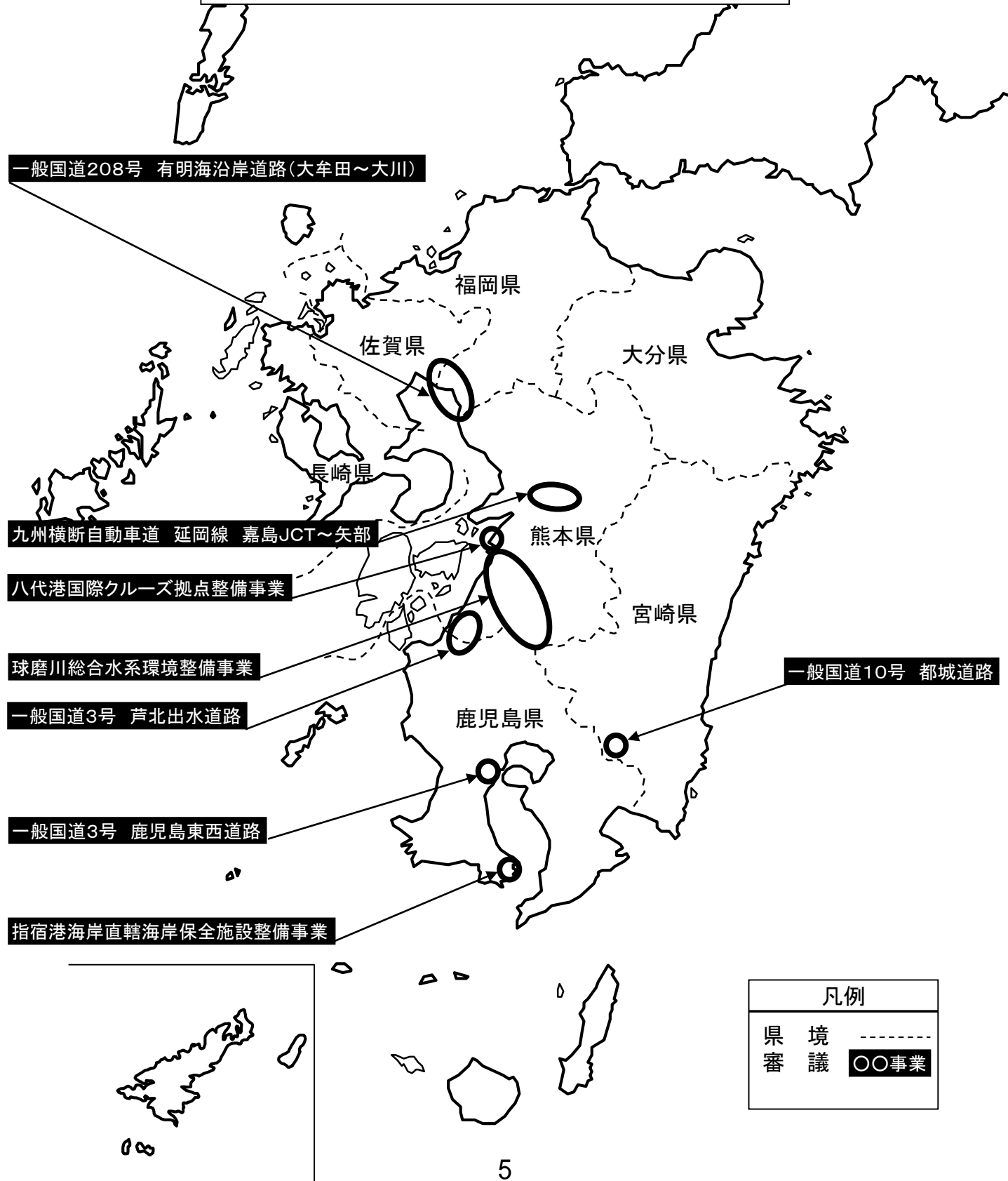
あさの 浅野	としゆき 敏之	鹿児島大学 地震火山地域防災センター特任教授
かきもと 柿本	りゅうじ 竜治	熊本大学大学院先端科学研究部教授
くわの 桑野	いずみ 和泉	(一社) 由布院温泉観光協会 会長
しばと 柴戸	たかしげ 隆成	(一社) 九州経済連合会 副会長
せいいち 勢一	ともこ 智子	西南学院大学法学部教授
そのだ ◎園田	よしみ 佳巨	九州大学大学院工学研究院教授
ただ 冨田	あきひで 彰秀	長崎大学大学院工学研究科教授
たつみ ○辰巳	ひろし 浩	福岡大学工学部教授
つだ 津田	みどり みどり	九州大学大学院農学研究院准教授
とだ 戸田	じゅんいちろう 順一郎	佐賀大学経済学部准教授
ひらた 平田	とおる 暢	福岡大学人文学部教授
ひろおか 廣岡	あきひこ 明彦	九州工業大学大学院工学研究院教授

※ ◎印：委員長

○印：副委員長

(五十音順、敬称略)

位置図(再評価)



九州地方整備局事業評価監視委員会（平成30年度第3回）議事録

○審議（再評価）

【球磨川総合水系環境整備事業（熊本県）】

（委員）

資料8ページ記載の「アユ遡上数の経年変化」や「アユはみ跡面積の経年変化」のグラフについて、出典は一緒だが調査年が異なるのは何か理由があるのか。

（事務局）

それぞれ調査の年間スケジュールが決まっており、「アユはみ跡面積の経年変化」の調査時期は12月頃のため、まだ平成30年の調査ができていないことによるものである。

（委員）

この事業の効果は将来的に継続して得られるのか。それとも10年、20年などのサイクルでメンテナンス等が必要なものなのか。

（事務局）

この地域にはもともと20,000㎡ほどの瀬があり、何百万のアユが遡上していたが、5分の1ほどになっていた。今回、瀬は20,000㎡に近い大きさに戻っており、基本的には現在のよう状況が維持できるのではないかと考えているが、モニタリングをしながら状況が変わってきたら、瀬の対応をしていくことになると思われる。

（委員）

巻末資料1ページによると、アンケートを実施しているようだが、回収率が低いのは郵送調査が原因だったのか。回収率が低いと本来の数値が出ないこともあるので教えて頂きたい

（事務局）

方法については、郵送で調査を実施している。マニュアル上では最低50件必要とされており、結果としてはそれぞれ球磨川下流地区では240件、坂本地区では367件の回答を得られている。

（委員）

その方法だと誤差が生じるように思うので、可能であれば依頼は郵送で行い、回収は訪問などにとするとより回収率が上がると思われるので検討していただきたい。

(事務局)

検討していきたい。

(委員)

坂本地区のB/Cが7.7だが、継続事業(B/C 2.6)に含まれているのか。

(事務局)

坂本地区は継続事業の中に入っている。

(委員)

この河川事業によりアユの生息環境を守っていることは理解できたが、河川の自然災害、特に大きな洪水があったときなどは生息環境に影響を与えるのではないか。そういった場合も考慮されているのか。

(事務局)

大きな洪水という意味では平成30年の出水期に、5,000m³/s規模の比較的大きな出水があったが、特に支障となることはなかった。今年の出水については、効果を発揮できる状態が保たれている。来年以降もモニタリングしていき、必要があれば対策を講じていきたい。

【九州横断自動車道 延岡線 嘉島JCT～矢部(熊本県)】

(委員)

法面对策工を見直さなければならないという説明であったが、阿蘇火砕流堆積物があることは始めから分かっていたのではないのか。

(事務局)

設計当初は、代表点調査によって想定範囲や地表面付近に阿蘇火災流堆積物があることは分かっていたが、その時点では安定勾配の確保や吹き付け工による法面保護で対応できると考え、施工に取りかかっていたところである。

(委員)

安定勾配の確保と鉄筋挿入ではかなり方法が違うが、なぜそのように対応が変わったのか伺いたい。

(事務局)

想定以上に風化の進行が早かったこともあり、施工中に表層すべりが進行するような状態だった。このような状況は当初では想定していなかったことが要因である。

(委員)

施工途中に風化が進みこのような結果になったということだが、施工完了まで風化が進んでない場合であれば、安定勾配が確保できて、そうならなかったということなのか。

(事務局)

風化が進まなければ、当初の吹付工等で安定する。

(委員)

この道路は、九州の骨格をなすもので非常に重要で、しっかりと造らなければならないと思う。おそらく阿蘇の堆積物にはまだデータがあまりなく、これからの工事が進んでいくなかで状況が分かってくることもあると思う。今後のコスト算定の際には、こうした経験が生かされるように進めていかないと同じ失敗を繰り返すことになるが、そのあたりはどのように考えているのか。

(事務局)

今後の事業としては、矢部から延岡方面にかけて事業が続いていくと考えられるので、その際は今回の経験を踏まえてしっかりとした計画を作りたいと考えている。

【一般国道3号 鹿児島東西道路（鹿児島県）】

(委員)

軟弱地盤層の厚さが当初7mに対し、実際では22mもの厚さがあるということから事業費増となっているが、当初のボーリング調査ではそうした深い厚さがあるところは確認できなかったということか。

(事務局)

当初は、現場周辺の地盤調査の結果から想定して、7m程度の厚さとしていた。

(委員)

施工位置から、どの程度離れた場所を調査されたのか。

(事務局)

施工位置より30mほど離れた道路敷の側道でしか調査することができなかったため、詳細な地盤状況が分からなかったといえる。

(委員)

交通量の変化の将来予測について、並行路線と鹿児島東西道路をトータルして交通量がかかなり増える予測となっているが、鹿児島市内の交通状況が大きく変化すると予想しているのか。

(事務局)

車線数が増えることで市内全体からの流入が増えるが、新たに造るトンネルと既存の道路との役割分担により、地域全体の円滑化につながるのではないかと考えている。

【一般国道10号 都城道路（宮崎県）】

(委員)

地下水位の想定は、施工位置での地質調査でないとできないものなのか。

(事務局)

当初の施工位置近隣の調査より、地下水位は地表面から15mと想定していたが、ここまで想定以上に異なる結果となった。今後は、周辺の地下水を活用している企業もあるので、そうしたところからのヒアリングも含めて、これから計画を立てていくことが大事かと思っている。

(委員)

調査の精度を上げるようにすることはできないのか。額面的には億単位の大きい増額になっていることから、もう少ししっかりやっていたら事前に分かる部分もあると思われるので、今後は調査の精度向上をお願いしたい。

(委員)

設計当初と施工時との地盤条件の乖離による事業費増は目につくところであるが、どのくらいの頻度で見積と違うことが生じているのかをチェックをしているのか。

(事務局)

再評価の度にこうしたチェックをするのは当然だが、それ以前に用地買収が終わったタイミング、あるいは施工状況が変わったタイミングなど設計精度に係わるすべての事業展開に対してチェックはしている。

(委員)

精度の高い調査をすればそれだけコストもかかり、どこかにやはり比重がかかってくるものと思われるが、その点についてはどう思われるか。

(事務局)

用地買収状況等の関係から現地のジャストポイントの施工位置での調査が難しいことが多く、実際の事業費を算出する場合は、文献等や、周辺地質調査等の結果を見ながら試算するというかたちになってくる。このまま事業費増が続いてもよいとは考えておらず、市町村の道路や下水道事業などの関連事業も周辺にはあると思われるのでそういったところも参考としていきたいと考えている。

【一般国道3号 芦北出水道路（熊本県・鹿児島県）】

意見なし

【一般国道208号 有明海沿岸道路（大牟田～大川）（福岡県・熊本県）】

(委員)

5日間の実施予定を1日とすることにどれだけベネフィットがあるのかと思うが、安全性の確保に対してベネフィットがあると理解してよろしいか。

(事務局)

施工の安全性を高めることに要するものである。

【八代港国際クルーズ拠点整備事業（熊本県）】

(委員)

便益に国際観光収入の増加があげられているが、この算定は何か指針に基づいてされているものなのか、地元の実情に基づいてされたものなのか教えて頂きたい。

(事務局)

一人あたりの観光消費額は、観光庁の訪日外国人消費動向調査を踏まえて設定された費用対効果分析マニュアル 20,000円/人に基づいたものである。

【指宿港海岸直轄海岸保全施設整備事業（鹿児島県）】

意見なし